

審議事項1

地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

令和6年12月26日提出

東広島市地域公共交通会議

会 長 塚 井 誠 人

1 提案理由

令和6年度に国の補助金である地域公共交通確保維持改善事業費補助金を受ける事業に対し、事業評価（自己評価）を行い、国土交通大臣に報告するもの。

2 事業評価について

別紙「資料1」のとおり

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料1

令和7年1月 日

協議会名: 東広島市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
JRバス中国株式会社	市街地循環線の運行(2系統) ①内回り ②外回り	路線沿線の協力店舗と連携して周知活動を行い、利用促進を図った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A 1便あたりの平均利用者数は12.9人であり、目標の12.9人を達成できた。	昨年度(R5)と比較し、1便あたりの平均利用者数は5.7%程度増加している。 引き続き、協力店舗連携の拡大も含めて沿線協力店舗と連携し、周知活動、公共交通の利用促進を図っていく。
芸陽バス株式会社	市街地循環線の運行(2系統) ①内回り ②外回り	路線沿線の協力店舗と連携して周知活動を行い、利用促進を図った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A 1便あたりの平均利用者数は12.9人であり、目標の12.9人を達成できた。	昨年度(R5)と比較し、1便あたりの平均利用者数は5.7%程度増加している。 引き続き、協力店舗連携の拡大も含めて沿線協力店舗と連携し、周知活動、公共交通の利用促進を図っていく。
JRバス中国株式会社	黒瀬地域におけるフィーダーバスの運行(6系統) ①渋・長貫～ショージ～黒瀬支所線 ②渋・長貫～黒瀬支所線 ③八畝ヶ畑～黒瀬支所線 ④洋国団地～黒瀬支所線 ⑤檜原～黒瀬支所線 ⑥上条～黒瀬支所線	R4年度末に地元運行協議会で行ったアンケート結果を基に、運行改善策を検討する等、引き続き地元運行協議会と連携を密にし、利用ニーズを反映した運行を行った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B 1便あたりの平均利用者数は3.0人であり、目標の3.2人を達成できなかった。	昨年度(R5)と比較し、1便あたりの平均利用者数は3.4%程度増加している。 R4年度末に地元運行協議会で行ったアンケート結果、R5年度に実施したサロンでのヒアリング結果を基に、運行改善策を検討する。検討の際、引き続き地元運行協議会と連携を密にし、利用ニーズを反映した運行を行っていく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月 日

協議会名: 東広島市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
有限会社白市交通	旧系統(～8月) おまるめ山バスの運行(6系統) ①大原～大原東団地線 ②大原東団地～大原線 ③大原～上条ハイツ～大原東団地線 ④大原東団地～白市ショージ前線 ⑤惣田地～扱和線 ⑥扱和～惣田地線 新系統(9月) おまるめ山バスの運行(8系統) ①大原中～あおぞらばん屋さん・門川内科医院 ②大原東団地～なんぶ内科医院 ③白市駅～大原中 ④あおぞらばん屋さん・門川内科医院～大原東団地 ⑤惣田地南～白市ショージ前 ⑥扱和～白市駅 ⑦白市駅～惣田地南 ⑧白市駅～扱和	-	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 1便あたりの平均利用者数は1.0人であり、目標の3.0人を達成できなかった。	地元運行協議会主体にて、利用実績のモニタリングを行うとともに、利用者、地域住民の声を集め、運行改善、利用促進等について継続的に検討を行い、策を実行する。地域や路線沿線施設を巻き込んだ地道な取り組みを継続、拡充する。
有限会社八本松タクシー	志和ホテル交通の運行(3系統) ①西志和地区 ②志和堀地区 ③東志和地区	-	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 1便あたりの平均利用者数は1.4人であり、目標の2.1人を達成できなかった。	運行継続に向けて需要を掘り起こすため、地元運行協議会が実施したアンケート調査結果等をもとに、運行改善を行う。併せて、地元運行協議会による移動に困っている人の個別訪問等の草の根的な利用促進策についても実施する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月 日

協議会名:東広島市地域公共交通会議

評価対象事業名: 車両減価償却費等国庫補助金

[illegible]

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月 日

協議会名：	東広島市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	東広島市は、広島県の中央に位置し、面積635.16km²、人口196,608人(R2国勢調査)の都市である。 【西条地域】 西条地域は官公庁、大学、病院、商業施設などの様々な施設が集積しており、今後の本市の発展を牽引する地域として、JR西条駅を中心に都市機能強化に向けた取り組みを推進しており、こうした施設を結ぶ交通ネットワークの構築を進める必要がある。 また、中心市街地へは比較的近隣から来ている(来街者の約5割は3km圏内)ことを考慮し、中心市街地へのアクセス性や回遊性の向上のため、中心市街地の賑わい創出に寄与する公共交通として、平成29年10月から当該地域の主要施設を結ぶ循環バスを新たに運行している。 【黒瀬地域】 黒瀬町は東広島市の南部に位置し、幹線道路を路線バスが運行しているものの、周辺の住宅地は交通不便地域となっている状況から、交通不便地域を解消し、地域住民の日常生活の移動手段の確保と、地域間幹線系統との接続による広域的な移動手段の確保を目的として、地域を運行主体とした、フィーダー系統を平成26年6月23日から運行している。 【小谷地域】 小谷地域は、本市高屋町の東寄りに位置しており、住宅が点在する田園風景の広がる地区と、昭和61年代以降に造成された大型団地等の地区が混在している。 地域内の中央北寄りに白市駅があり、西条・広島方面の通勤・通学等において利用されている。幹線鉄道に接続する端末交通として、白市駅から北西部方面・広島空港方面に向けて路線バスが運行しているが、この路線以外に地域内を運行している路線バス等はない。 令和2年度より地域の移動手段確保について地域で検討を重ね、令和5年7月1日に住民自治組織を母体とした「小谷小学校区おまるめ山バス運営協議会」が発足し、地域を運行主体としたコミュニティ交通「おまるめ山バス」を令和5年10月より運行している。 【志和地域】 志和地域は、本市の北西部に位置し、主要道路の沿道に農地と住宅が混在する集落が形成されており、また多くの工場が分散して立地している。地域内には、八本松・西条方面や広島市方面に向けた路線バスが運行されているが、居住地が広範囲に分散しているため、公共交通不便地域に居住する住民も多い。地域内の高齢化も進んでおり、バス停までの移動が難しくなっている高齢者等のモビリティ確保が課題となっている。 地域内の移動手段確保のため、令和4年度から本格的に地域で協議を行い、令和5年12月20日に「志和町地域交通運行協議会」が発足し、地域が運行主体となったコミュニティ交通「志和ホテル交通」を令和6年3月より運行している。「日常生活を支える交通」「持続可能な交通」のため、引き続き本路線を確保・維持する必要がある。



令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価

東広島市地域公共交通協議会

生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統)の概要

東広島市の概要

- ・平成17年2月に1市5町が合併
- ・人口 196,608人(令和2年度国勢調査)
- ・面積 635.16km²

交通会議の構成員

広島県 東広島市 西日本旅客鉄道(株) 芸陽バス(株) JRバス中国(株) 広島電鉄(株) (有)白市交通 (有)八本松タクシー 広島県タクシー協会 市民代表 学識経験者 広島運輸支局 東広島警察署

概 要

東広島市は、「人と環境にやさしく、誰もが自立して安全・快適・自由に移動でき、サービスを楽しむ未来都市」を目指している。市では、日常生活を支える交通としてのフィーダー系統に加え、都市の活力を促進する自動運転・隊列走行BRTなど、多様なモビリティによる利便性の高い移動サービスの提供を進め、新たな交通システムの構築を図っている。

フィーダー系統は市内4地域で運行している。官公庁や商業施設が集積し、今後の発展を牽引する中心的地域である西条地域では、中心市街地へのアクセス性や回遊性を向上させるため、平成29年10月から主要施設を結ぶ循環バスの運行を開始している。黒瀬地域では、幹線道路沿いには路線バスが運行しているものの、周辺の住宅地の一部は交通不便地域となっていた。日常生活の移動手段を確保するため、地域が運行主体となり、平成26年6月よりフィーダー系統を運行開始している。小谷地域では、JR山陽本線や広島空港方面への路線バスが運行されており、地域外への移動環境は比較的良好であるが、地域内の移動環境は十分とは言えない状況であった。日常生活の移動手段を確保するため、地域が運行主体となり、令和5年10月よりフィーダー系統を運行開始している。志和地域では、地域を循環する路線バスが運行されているものの、居住地が広範囲に分散しているため、バス路線から離れたエリアが交通不便地域となっていた。日常生活の移動手段を確保するため、地域が運行主体となり、令和6年3月よりフィーダー系統を運行開始している。

協議会の主な取り組み

- ・交通空白地域におけるフィーダー交通の導入
- ・自動運転・隊列走行BRTの検討
- ・東広島市都市交通計画の策定協議
(令和6年6月策定)
- ・東広島市地域公共交通利便増進実施計画の変更の協議
(令和6年7月一部改正)

協議会における検討

協議会の開催状況 4回開催

- ・第1回(令和6年5月24日) 東広島市都市交通計画 パブリックコメントの結果について、小谷地域公共交通(おまるめ山バス)の運行計画の変更について
- ・第2回(令和6年6月19日) 地域公共交通計画(東広島市都市交通計画)における 令和7年事業年度地域公共交通確保維持事業に係る計画の策定について
- ・第3回(令和6年7月26日) 令和5年度東広島市地域公共交通会議決算の承認について、地域フィーダー系統確保維持計画(R6~R8)の変更について、東広島市地域公共交通利便増進実施計画の改定について、令和6年度自動運転・隊列走行BRT検討分科会(第1回)について
- ・第4回(令和6年11月29日) 東広島市地域公共交通会議SNS運営ポリシーの策定、活用方法について、各種事業進捗報告について、西条エアポートリムジンの運賃改定について

定量的な目標・効果

西条市街地循環バス(のんバス)

(目標)・1便当たり平均利用者数を12.9人以上とする(昨年度実績12.2人)

(効果)・ニーズの高い施設への公共交通でのアクセス性向上

- ・中心市街地の賑わい創出
- ・都市の健全な発展と秩序ある整備につながる交通網の構築

※車両減価償却費補助:補助対象車両数2台

昨年度の自己評価に 対するフォローアップ

- ・昨年度と同様に協力店舗連携の拡大も含めて沿線協力店舗と連携し、周知活動、公共交通の利用促進を図った。

昨年度の運輸局二次評価に 対するフォローアップ

- ・「目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する」とされた点について、要因はコロナの影響が大きかったと捉えている。コロナ前の利用者数は増加傾向にあったが、コロナ禍の令和3年にはコロナ前の83%まで減少。コロナ禍でも路線沿線の協力店舗と協力し周知活動、公共交通の利用促進を継続的に実施し、その成果もあり、令和6年にはコロナ前の116%となった。今後は目標達成に向けて各種取り組みをより効果的に実行できるように、効果検証を行う環境・体制をつくりたい。

実施した利用促進策

- ・路線沿線の協力店舗との連携(乗車証明書提示することにより、協力店舗の特典がうけられる。店舗数73店(図書館含む))

(例) 中国産業 ボーリング利用料、入浴料、宿泊料などの割引
フジグラン東広島 クーポン券進呈、ポイントサービスなど
ゆめタウン東広島 クーポン券進呈、ポイントサービスなど
その他 買い物割引、プレゼントの贈呈など多数あり

地域住民の意見の反映

- ・地元住民の意見を反映した運行計画となるよう、引き続き地域のニーズ把握に努めていく。

定量的な目標・効果

黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス)

(目標)・1便当たり平均利用者数を3.2人以上とする。(昨年度実績1便当たり2.9人)

(効果)・交通不便地域の解消

- ・買物弱者支援
- ・医療施設への移動手段の確保
- ・自ら外出する機会が増えることによる、高齢者の健康増進、生きがい創出

昨年度の自己評価に 対するフォローアップ

- ・令和4年度末に地元運行協議会で行ったアンケート結果、令和5年度に実施したサロンでのヒアリング結果を基に、運行改善策を検討する等、引き続き地元運行協議会と連携を密にし、利用ニーズを反映した運行を行った。

実施した利用促進策

- ・地元運行協議会が主体となり、路線図・時刻表等の配布・利用促進に努めた。
- ・地域の各サロンに乗車券を配布して乗ってもらい、意見等を聴取した。
- ・運行10周年フォトコンテストを実施。

▽黒瀬さくらバスフォトコンテスト



昨年度の運輸局二次評価に 対するフォローアップ

- ・「目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する」とされた点については、地元運行協議会が主体となり、地域住民の意見を収集分析し、運行改善や利用促進に取り組んだ。これまでの取り組みに加えて、黒瀬さくらバスの認知度向上のためフォトコンテストを開催した。

地域住民の意見の反映

- ・運行主体を地元運行協議会としており、運行ルート、ダイヤについては、地域住民の意見を取り入れたものとなっている。
- ・令和4年度末のアンケート結果を基に、運行改善を協議した。
※地元運行協議会は、住民自治組織を母体としている。

定量的な目標・効果

小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス)

(目標)・(旧・新系統)1便当たり平均利用者数を3.0人以上とする。

(効果)・交通不便地域の解消

- ・買物弱者支援
- ・医療施設への移動手段の確保
- ・自ら外出する機会が増えることによる、高齢者の健康増進、生きがい創出

昨年度の自己評価に 対するフォローアップ

R6年度新規事業

実施した利用促進策

- ・地元運行協議会が主体となり、利用の手引きの配布や、地域の高齢者サロンや地域行事での利用方法の説明会等を開催し利用促進を図った。

▽乗り方を学び、すぐに乗ってみる乗り方教室 ▽おでかけ動画



昨年度の運輸局二次評価に 対するフォローアップ

R6年度新規事業

地域住民の意見の反映

- ・地元運行協議会が主体となり、運行計画を作成するにあたり、全世帯アンケート調査結果(回収率45%)を反映した。その計画に基づき令和5年10月に運行を開始した。
- ・運行協議会の委員が敬老会などの地域行事での説明会で地域住民の意見を集めた。
- ・月に1回運行協議会を開催し、利用状況のモニタリング、地域住民の意見の集約を行い、運行改善や利用促進について検討を行った。

定量的な目標・効果

志和地域内フィーダー系統(志和ホタル交通)

(目標)・1便当たり平均利用者数を2.1人以上とする。

(効果)・交通不便地域の解消

- ・買物弱者支援
- ・医療施設への移動手段の確保
- ・自ら外出する機会が増えることによる、高齢者の健康増進、生きがい創出

昨年度の自己評価に 対するフォローアップ

R6年度新規事業

実施した利用促進策

・地元運行協議会が主体となり、利用の手引きの配布や、地域の高齢者サロンやサロンの世話人交流会での利用方法の説明会を開催し利用促進を図った。▽協議会での検討状況 ▽世話人交流会での説明



昨年度の運輸局二次評価に 対するフォローアップ

R6年度新規事業

地域住民の意見の反映

- ・地元運行協議会が主体となり、全世帯アンケート調査を実施(回収率56%)。アンケート結果も踏まえた運行計画を策定し、令和6年3月に運行を開始した。
- ・運行協議会が地域内での会議や敬老会など地域行事で、志和ホタル交通の説明を行い、住民の意見を集めた。
- ・月に1回の頻度で、運行協議会を開催し、利用状況のモニタリング、地域住民の意見の集約を行い、運行改善や利用促進について検討を行った。

東広島市地域公共交通協議会 事業の評価

事業実施の適切性

西条市街地循環バス(のんバス)	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金:計画どおり実施されている。 車両減価償却費等国庫補助金:計画どおり実施されている。
黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス)	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金:計画どおり実施されている。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス)	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金:計画どおり実施されている。
志和地域内フィーダー系統(志和ホテル交通)	計画どおり実施されている。

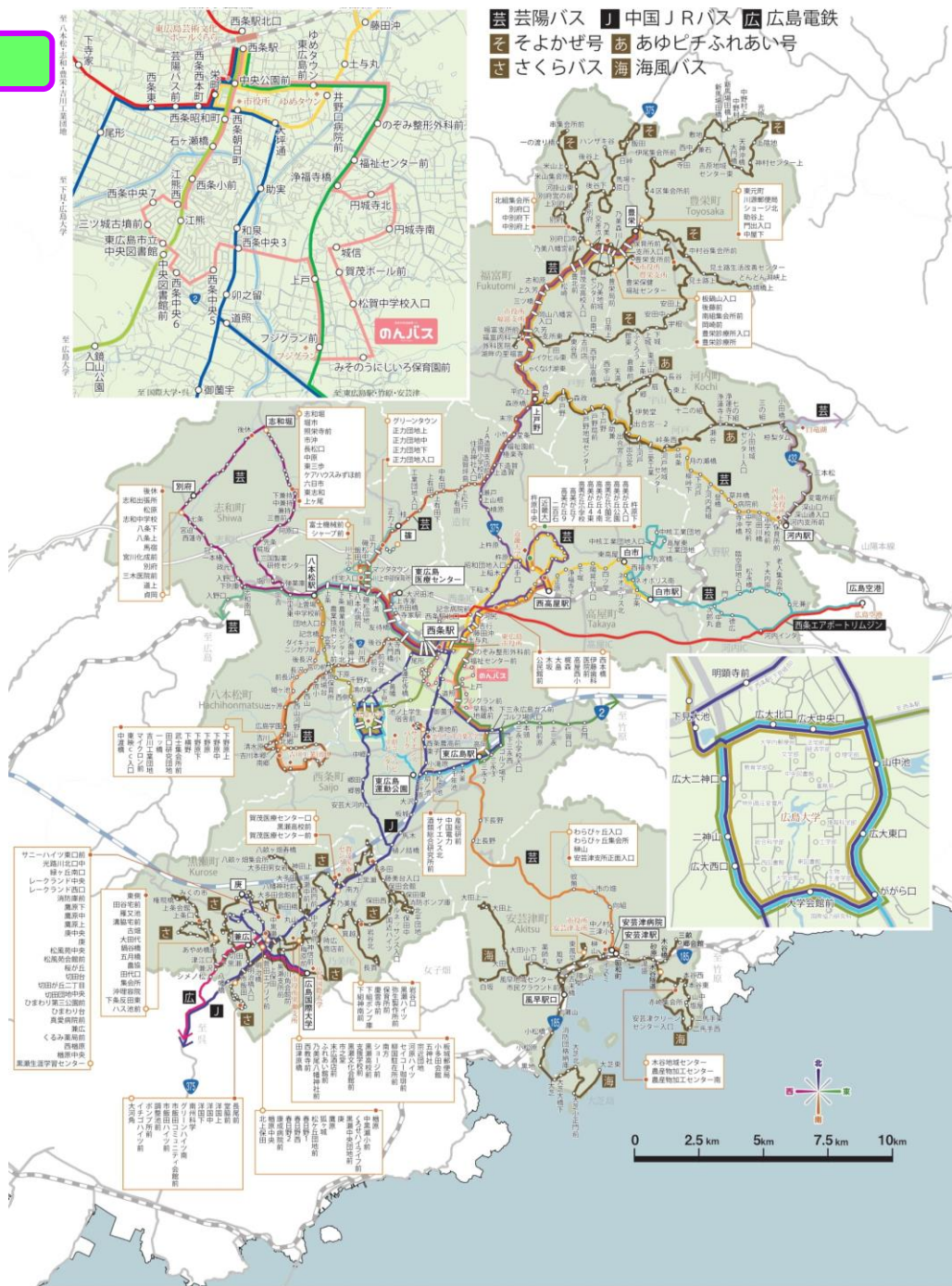
目標・効果達成状況

西条市街地循環バス(のんバス)	(目標)1便当たりの利用者数は12.9人で、目標12.9人以上を達成した。
黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス)	(目標)1便当たりの利用者数は3.0人で、目標3.2以上を達成できなかった。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス)	(目標)1便当たりの利用者数は1.0人で、目標3.0人以上を達成できなかった。
志和地域内フィーダー系統(志和ホテル交通)	(目標)1便当たりの利用者数は1.4人で、目標2.1人以上を達成できなかった。

事業の今後の改善点

西条市街地循環バス(のんバス)	引き続き、協力店舗連携の拡大も含めて沿線協力店舗と連携し、周知活動、公共交通の利用促進を図っていく。
黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス)	令和4年度末に地元運行協議会で行ったアンケート結果、令和5年に実施したサロンでのヒアリング結果を基に、運行改善策を検討する。検討の際、引き続き地元運行協議会と連携を密にし、利用ニーズを反映した運行を行っていく。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス)	地元運行協議会主体で、利用実績のモニタリングを行うとともに、利用者、地域住民の声を集め、運行改善、利用促進等について継続的に検討を行い、策を実行する。地域や路線沿線施設を巻き込んだ地道な取り組みを継続、拡充する。
志和地域内フィーダー系統(志和ホテル交通)	運行継続に向けて需要を掘り起こすため、地元運行協議会が実施したアンケート調査結果等を基に、運行改善を行う。併せて、地元運行協議会による移動に困っている人の個別訪問等の草の根的な利用促進策についても検討・実施する。
全体	月別の利用実績をもとに運行改善、利用促進の効果を検証する環境・体制を整え、短い期間でPDCAサイクルを回せるようにする。

交通体系図 別紙



交通体系図 別紙

系統名: ①赤ルート②青ルート
 運行形態: 4条路線、乗合バス型(定期)
 運行日・便数: ①赤ルート1日24便 ②青ルート1日24便
 運賃: 一律200円(小児割引、障害者等は100円、乳児は無料)

路線図

〈バス停の凡例〉

- バス停 (両ルート)
- バス停 (赤ルートのみ)

西条駅 バス停名

〈矢印の凡例〉

- ① 赤ルート (外回り)
- ② 青ルート (内回り)

① 赤ルート(外回り)専用のバス停について

「5福祉センター前」バス停のみ、
 ①赤ルート(外回り)専用のバス停とな
 っています。②青ルート(内回り)
 ご利用の場合は停車しませんので、
 「4のぞみ整形外科前」または「6浄
 福寺橋」でお降りください。



広島大学



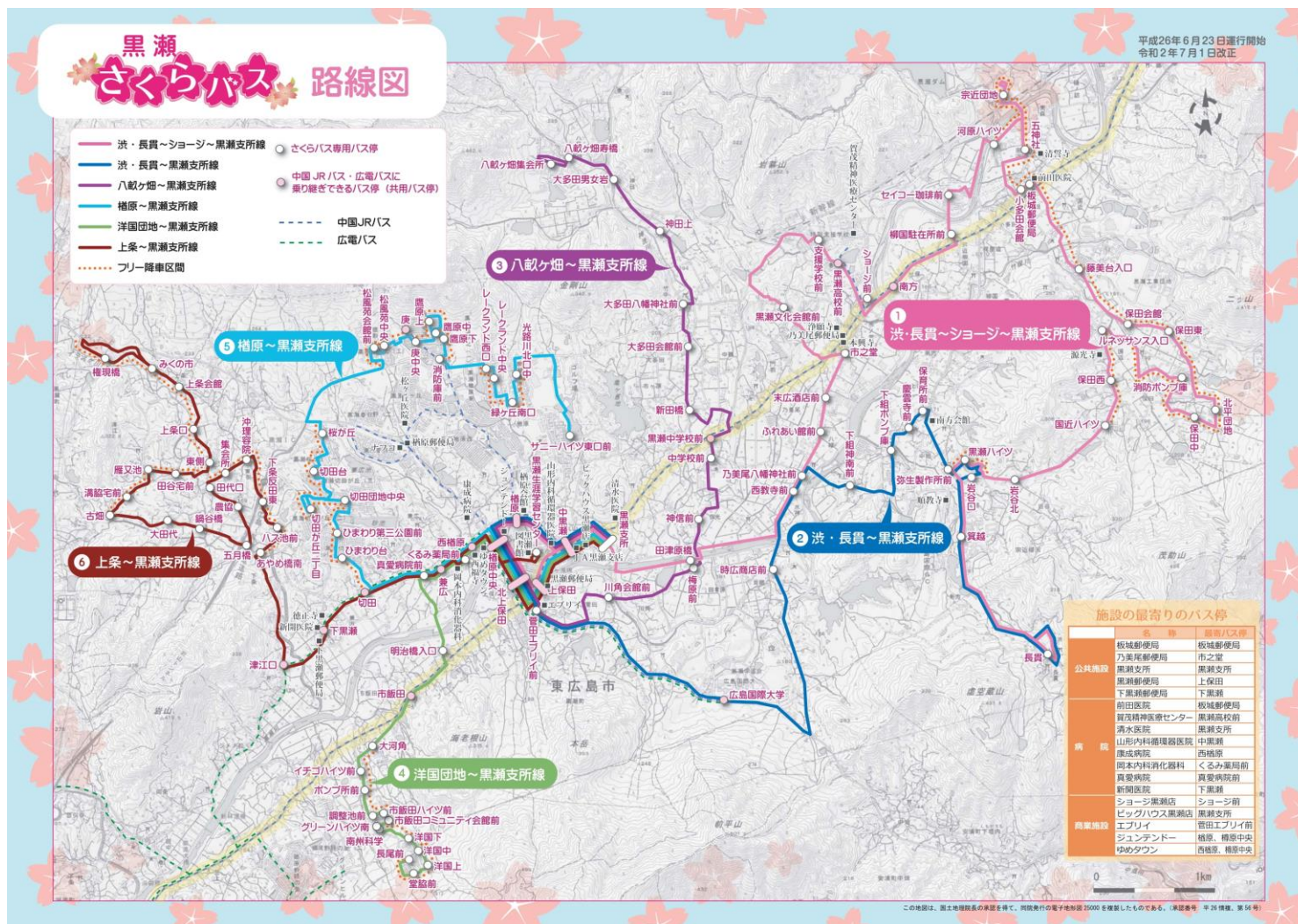
交通体系図 別紙

系統名: ①渋・長貫～ショージ～黒瀬支所線、②渋・長貫～黒瀬支所線、③八畝ヶ畑～黒瀬支所線、④洋国団地～黒瀬支所線、⑤檜原～黒瀬支所線、⑥上条～黒瀬支所線

運行形態: 4条路線、乗合バス型(定期)

運行日・便数：月曜日④⑤系統、火曜日②⑥系統、水曜日①系統、木曜日③⑥系統、金曜日④⑤系統 各系統1日4便

運賃: 一律200円(小児割引、障害者等は100円、乳児は無料)



交通体系図 別紙

旧系統

系統名: ①大原～大原東団地線②大原東団地～大原線③大原～上条ハイツ～大原東団地線④大原東団地～白市ショージ前線
 ⑤惣田地～扱和線⑥扱和～惣田地線
 運行形態: 4条路線、乗合バス型(定期)
 運行日・便数: 月・水・土曜日①系統1日2便 ②系統1日3便 ③系統1日2便 ④系統1日1便、火・木・金曜日 ⑤⑥系統 各系統1日3便
 運賃: 一律200円(小児割引、障害者等は100円、乳児は無料)

月・水・土曜日運行

火・木・金曜日運行



交通体系図 別紙

新系統

系統名: ①大原中～あおぞらぱん屋さん・門川内科医院②大原東団地～なんぶ内科医院③白市駅～大原中④あおぞらぱん屋さん・門川内科医院～大原東団地⑤惣田地南～白市ショージ前⑥扱和～白市駅⑦白市駅～惣田地南⑧白市駅～扱和

運行形態: 4条路線、乗合バス型(定期)

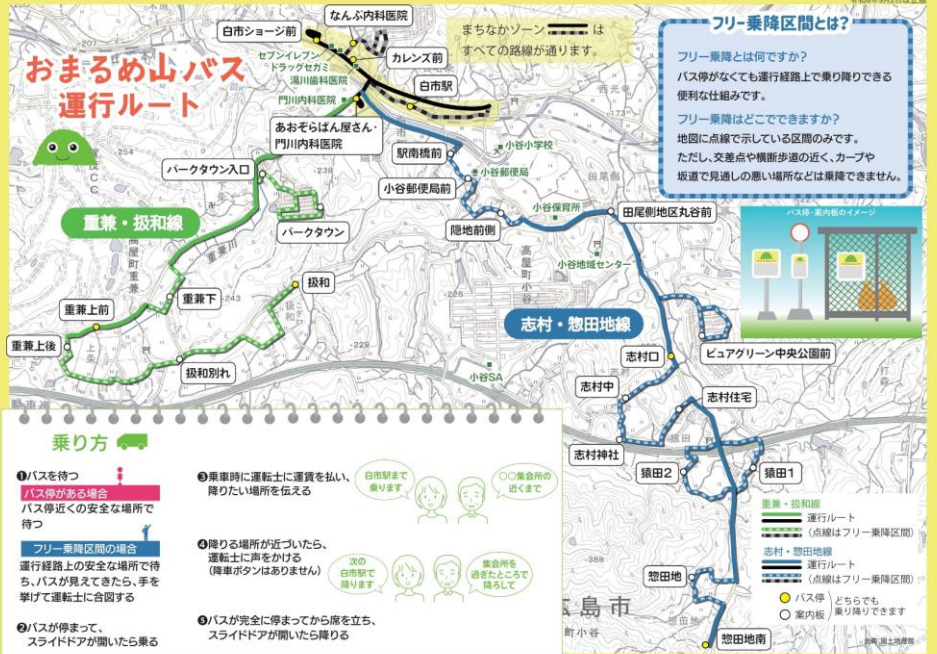
運行日・便数: 月・水曜日①②③④系統、火・金曜日⑤⑥⑦⑧系統 各系統1日2便

運賃: 一律200円(小児割引、障害者等は100円、乳児は無料)

月・水曜日運行



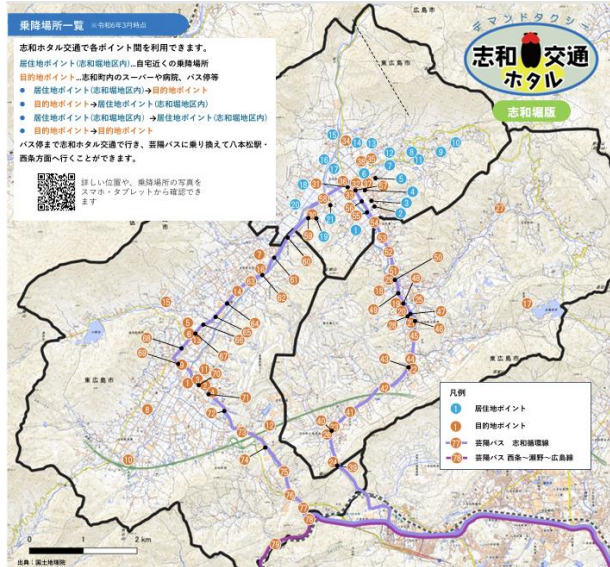
火・金曜日運行



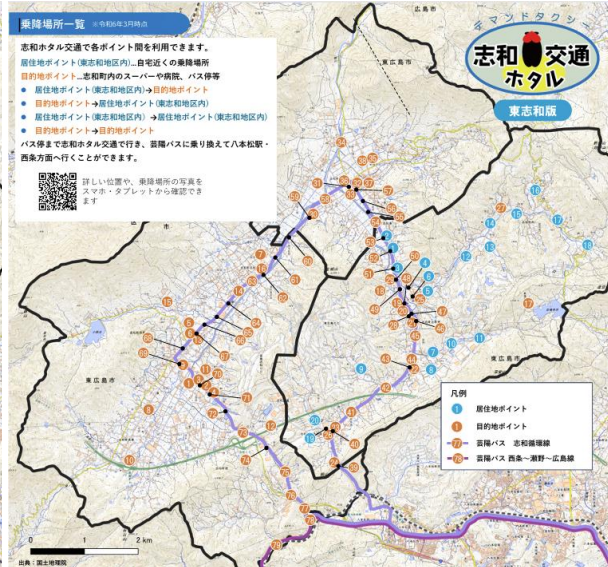
交通体系図 別紙

系統名: ①志和ホテル交通(志和堀地区)②志和ホテル交通(東志和地区)③志和ホテル交通(西志和地区)
運行形態: 区域デマンド型
運行日・便数: 志和堀地区:月・木曜日 東志和地区:火・金曜日 西志和地区:水・土曜日 各系統1日5便
運賃: 一律300円(小児割引、障害者等は150円、乳児は無料)

志和堀地区



東志和地区



西志和地区

